

ストッキング大手のアツギが2025年3月に発売した破れにくさが売りのレッグウェア「スゴスト」が好調だ。生地の厚さと透明感という相反する2つの要素を兼ね備え、発売から約4カ月で小売店頭での販売は計画を4割上回った。ストッキングの長年の課題だった破れやすさに技術力

### アツギ、レッグウェア「スゴスト」



破れにくさが特徴のアツギのスゴスト（ベビーページ）

## 6倍長持ち、厚み・透明感両立

で挑み、人気を集めている。した時の太さが1.5倍で厚さをもちつつ、はいた際の見た。レッグ部分の摩耗耐久課長は振り返る。スゴストの最大の特徴は、太さが変わる。同社では30倍の目やフィット感はストッキングに近い。通常は打ち合わせから商品化まで半年のサイクルで、新商品を作るが、スゴストは強度と透明感を両立する。3・6倍だ。破れやすいつま先は生地の厚さを従来品の1.5倍、腰から太ももにかけてのストッキングを引く張る際に力が入る部分。だが、通常は5回ほどの着用で破れてしまうところ、スゴストは6倍の30回はいても破れなかった。実際に「1足あたりの価格は高く見えるが、はいてみて納得した」との声があったという。品ぞろえはウエストまでの長さのもの（1980円）とひざ下丈（1320円）の2型、シアードージュ、ベビーページ、黒の3色。サイズは長い丈の方がM、LとLLの2種類、ひざ下丈が22〜25センチ用の1種類を展開する。販売から4カ月で小売店での販売実績は計画を4割上回り、自社の電子商取引（EC）と直営店でも1割上回った。7月下旬分までを想定していたひざ下丈の在庫は6月下旬に完売した。8月以降の秋冬シーズからは全国で発売し、目標を1割上回る受注があったという。

まで開発に2年かかった。ストッキングは薄くなければならないという固定観念が社内にあったが、「太い糸でも透明感を出せないか」という発想転換がスゴスト誕生のきっかけとなった。ジャケットなどに使われている2種類のナイロンを張り合わせた太い糸を特許申請中の特殊な編み方で透感が出るように工夫した。も厚さを2倍に補強した。新作の度に行われる社内での着用試験も通常のストッキングは5回ほど着用すると破れてしまうが、スゴストは破れないため試験期間が長かったという。「社員に30回を目指して試験着用してもらったが、なかなか破けず3カ月半以上かかると申し訳なかった」とレック製品開発課の加藤理子（子玉朋佳）